

高齢者がん診療ガイドラインの普及・検証、体制整備に向けた検討

研究分担者 渡邊 清高 帝京大学医学部内科学講座 病院教授

要旨

高齢者がん医療ガイドライン普及にあたっては、高齢者におけるがんの現状、病態や病状の特徴（特に非高齢者との対比において）、老化に伴う身体的・精神心理的・認知的な課題、診断や治療の基本的な考え方、社会・経済的な背景などを認識することが求められる。幅広い特性と個人差・社会的背景を有する高齢者における質の高いがん医療の普及には、高齢者の特性を踏まえた高齢者機能評価（GA）と、非高齢者を対象とした臨床研究によって提示されることの多いエビデンス、そして医療・介護・福祉を取り巻く社会的環境に基づく議論が必要である。高齢者がん医療テキストブックの項目をもとに、高齢者を取り巻く環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるための、コンピテンシー（高齢者がん診療に求められる基本的な資質・能力）およびカリキュラム（教育研修プログラム）として必要な要素を抽出した。

A. 研究目的

身体的、精神心理的そして社会的にさまざまな背景を持つ高齢者において、がんを患ったときに、ハイリスク・脆弱で機能障害を抱える患者から、心身の状態が良好な患者まで幅広い。高齢者における質の高いがん医療の普及には、高齢者の特性を踏まえた高齢者機能評価（GA）と、非高齢者を対象とした臨床研究によって提示されることの多いエビデンス、そして医療・介護・福祉を取り巻く社会的環境に基づく議論が必要である。高齢者がん診療ガイドライン（GL）が普及し、がん診療がなされるがん診療連携拠点病院などのがん治療施設、慢性期や療養期を支える医療機関や介護福祉施設、自宅など在宅環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるには、普及や浸透のプロセスが重要である。

GLの普及にあたっては冊子体による公表だけでなく、ウェブサイトでの公開、がん関連学会・団体への紹介、それをもとにした各学会のガイドライン委員会にがん種ごとの高齢者に関するGLやコンセンサス策定を働きかけることが重要となる。がんに関わる医療者にGLの周知・普及を図るには、オンデマンド形式でいつでも誰でも視聴できるようなe-learningプラットフォームの活用や、ソーシャルネットワーク・サービス（Facebook、Twitter、YouTubeなど）の利用も効果的である。がんを診療しているがん診療連携拠点病院にとどまらず、高齢者の慢性疾患の診療を行っている医療機関へのアプローチも、患者の診療やケアの道筋を考えると重要と言える。本検討では、研修会やオンラインツールを活用したGL普及に向けて必要な要素、および高齢者がん医療の現場での普及や浸透プロセスに求められる要点を考察し評価手法について述べることにしたい。

B. 研究方法

- 1) オンラインでのGLの普及に向けた議論
・当研究班主催の「高齢者がんを考える会議5 老年腫瘍学の確立を目指して：老年科と腫瘍科の密接な連携（2021年11月開催）」における議論、そして、公開討論形式で、「高齢者がんを考える会議6 介護とがん医療の連携についての公開討論（2022年2月開催）」では、医療者だけでなく患者・家族・一般人を交えて、高齢者におけるがん医療提供体制、介護・福祉を含めた支援体制について議論した。
- 2) 高齢者がん医療GL普及に向けた研修プログラムに必要な要素
・高齢者がん医療GL、および上記議論を踏まえ、高齢者がん診療に加え、高齢者全般の医療やケアに関わる関係者に向けたGLが普及するための研修プログラムのあり方、必要な要素についての検討を行った。

C. 研究結果

- 1) オンラインでのGLの普及に向けた議論
・高齢者がんを考える会議5「老年腫瘍学の確立を目指して：老年科と腫瘍科の密接な連携」（2021年11月オンライン開催）では、本研究分担者、高齢者がん医療協議会、JASCC、老年医学会の委員、会員が参加して議論した。老年科・腫瘍科の両診療科とも人材確保が課題である一方で、双方が協力して老年腫瘍学・高齢者がん医療領域の確立と診療における協力体制の確立が必要であることを確認した。
- ・高齢者がんを考える会議6「介護とがん医療の連携についての公開討論」（2022年2月オンライン開催）では、医療者だけでなく患者・家族・一般人とともに介護保険制度の基礎から、高齢者を取り巻く在宅医療、介護サービスにいたるまで講演や実態を聴き聞

題点を議論した。その内容をウェブサイトに掲載し、YouTubeでの配信がなされた。

2) 高齢者がん医療GL普及に向けた研修プログラムに必要な要素

高齢者のがん医療GL普及にあたっては、高齢者におけるがんの現状、病態や病状の特徴（特に非高齢者との対比において）、老化に伴う身体的・精神心理的・認知的な課題、診断や治療の基本的な考え方、社会・経済的な背景などを認識することが第一歩となる。さらには、高齢者機能評価（GA）とGAに基づくがん診療の実際について、具体的な事例を含めて提示することが求められる。こうしたことから、高齢者のがん医療テキストブックでは、以下の項目にて専門家による執筆をいただくこととなった。

●高齢がん患者の特徴

- 1) 疫学
 - A. 病因
 - B. 高齢者に多いがん、予後
- 2) 症状
- 3) 個人差
- 4) 臓器・細胞レベル
 - A. 細胞老化・免疫老化とがん化の関係
 - B. がんが及ぼす影響ーカヘキシア
 - C. PK/PD

5) 社会・経済的背景

●高齢者のがん診療の実際

- 1) 機能評価
- 2) 診断・検査
- 3) 機能評価に基づく目標設定
- 4) 機能評価に基づく治療法の選択
 - A. 意思決定支援
 - B. 手術
 - C. がん薬物療法
 - D. 放射線治療
- 5) 治療による悪化を防ぐアプローチ
 - A. 栄養面（NST）
 - B. 運動面（リハビリ）
 - C. 心理・精神面
 - D. 歯科口腔ケア
- 6) 高齢者に多い併発症への対応
 - A. 糖尿病
 - B. 循環器疾患
 - C. 腎臓病
 - D. その他

●がんを抱えながら生きる高齢者への対応

- 1) QOL (quality of life)
 - A. 栄養療法
 - B. 運動療法
 - C. 緩和療法（痛み）
- 2) QOD (quality of death)
 - A. ACP (advance care planning)
 - B. NBM (narrative based medicine)
 - C. 保険制度の利用

●老年腫瘍学の教育・研修制度

●老年腫瘍学領域における研究手法

- 1) 老年腫瘍学領域における評価項目
- 2) 実例紹介

以上の項目を踏まえ、高齢者のがん診療に携わる医療者が修得すべきコンピテンシー（高齢者がん診療に求められる基本的な資質・能

力）およびカリキュラム（教育研修プログラム）として、以下の要素が挙げられる。

●高齢者がん診療に求められる基本的な資質・能力

- ・高齢者がん診療の心構え
- ・患者の視点
- ・コミュニケーション
- ・チーム医療
- ・科学的根拠
- ・高齢者がん診療の実践能力
- ・研究能力
- ・自己研鑽
- ・教育能力

●高齢者がん診療のカリキュラムの構成要素

- ・高齢者がん医療の基本的事項
- ・高齢者がん医療総論・各論
- ・高齢者を取り巻く医療と社会
- ・高齢者がん医療の研究

質の高い高齢者のがん医療を提供する専門職の到達すべき目標を策定し、必要なプログラムを企画・立案することが求められる。以下に、例を挙げる。

●高齢者のがん診療における学修到達目標（SB0: specific behavioral objective）の例

- ・高齢者がん医療におけるチームアプローチの必要性を説明できる
- ・当事者・支援者・経験者のニーズを多面的に評価できる
- ・患者の心理・社会的背景を踏まえ、関係性を築き意思決定を支援できる
- ・医療の質と安全の管理の面から、良質で安全な高齢者がん医療を提案できる
- ・専門職として求められる社会的役割を説明できる
- ・患者と家族との対話を通じて、人間関係を構築できる
- ・さまざまな専門職種と連携し良質な医療を提供できる
- ・（医師・看護師・薬剤師・スタッフの視点で）提案・実践できる

D. 考察

高齢者のがん診療のコンピテンシーに関する到達目標に基づき、教育研修プログラムの立案が可能となる。今後は具体的なテーマ（大腸がん医療、介護と医療の連携、など）において、どのようなアウトカムが求められるか、関係者による議論と試行プログラムでの評価検証をもとに、均てん化に向けた検討や議論が進むことが望まれる。これによって、医療現場でのGLの活用が促される。最も重要なことはGLの周知ばかりでなく、実際に使われ評価を受け、今後の改善（GL改訂、教育プログラムの精緻化）、普及につなげることである。今後アンケートなどを活用してその普及度を調査するとともに、評価・検証の枠組みが重要と考えられる。

E. 結論

高齢者のがん医療テキストブックの項目を

もとに、高齢者を取り巻く環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるための、コンピテンシー（高齢者ががん診療に求められる基本的な資質・能力）およびカリキュラム（教育研修プログラム）として必要な要素を抽出した。今後の普及や均てん化に向けたモデル研修会での実践により実効性を高めていくことが求められる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

・楯 直子, 渡邊 清高, 安西 偕二郎, 上野 公子, 安野 伸浩 薬学部教育から医療現場・地域に広がる多職種連携 患者中心の医療を実践できるチーム医療を目指して 薬学教育5 119-126 2022年

・渡邊 清高 がんの在宅療養をチームで支える 地域における工夫と実践

Palliative Care Research 16(Suppl.)

198-198 2021年

・渡邊 清高, 河原 正典, 田代 志門, 唐渡 敦也, 的場 元弘, 清水 哲郎 がんの在宅療養を支える情報発信とCOVID-19時代における活用状況を踏まえた更新に向けた検討

Palliative Care Research 16(Suppl.)

415-415 2021年

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし